

1 現代文

問一 ア 滑 イ 不穩 ウ 家畜 エ 履歴 オ 迅速

問二 私と人間ならざるものを含む他者たちの断片(二〇字)

問三 人間のありようを方向づけ、他者や自然との関係を秩序づける規範を含まない点で、人類学的なサブスタンスコードとは異なるが、コード化された遺伝情報を内包し、他種の生物間で移動する物質である点で、「サブスタンスコード」といえる。

問四 幻想

問五 他者のサブスタンスコードを摂りこむことで生成するとともに変容し、自己の一部を放出することでつながりの中に拡散していくような、人間の本来のあり方を示す概念。

問六 危険な力と豊饒な力を併せ持つ他者との関係において、他者との接触や物のやりとりがもたらしうる危険を避けつつ、他者の豊饒な力を受け取るという役割。

問七 仲の良い友人の口癖が知らない間に移っていたり、憧れている先輩の考え方の影響を無意識のうちに受けていたりすることがあるように、自他の境界とは決して強固なものではなく、私たちは常に他者の影響にさらされた存在である。自己とは、近代的個人という言葉が想定しているような自立した単一の存在として捉えられるのではなく、他者との相互関係において形成され、絶えず変容し続けている存在だと言えるのではないか。(一九六字)

社会が持つ期待や価値観を無視して、科学的な合理性だけで危険を判断しても人々はそれを受容できないし、科学的な合理性を無視すれば危険の存在自体を認識できないことが多いと筆者は主張する。

今日、原発の再稼働が問題になっており、原子力規制委員会で科学者たちが原発の安全性について審査している。しかし、原発に対する人々の疑念を真摯に受け止めず、再稼働にとって都合の良いデータや知見に注目して原発の安全性を主張しても、人々の懸念を拭うことはできないし、そのような主張が人々に受容されることはないだろう。それはさまざまな世論調査の結果を見れば明らかである。

また、福島原発の事故の原因となった規模の津波が起こり得ることはすでに予測されていただけでなく、歴史資料や地質調査によって確認されていたのである。そのような科学的な知見を無視した結果があるような大惨事を招いたことを忘れてはならない。

このように、科学者は、人々の懸念をふまえた上で原発の安全性について検討するべきだし、人びとは、科学によって得られた知見をふまえた上で、再稼働の是非について社会的な合意を形成していくことが必要である。（四八八字）